

大阪市西区にある経営コンサルティング事務所、長尾経営事務所が毎月発行するニュースレター。われわれの「人となり」を知って頂きたいというおもいで、2013年5月よりスタートしました。最近の活動報告や事例紹介、オススの書籍など、経営に関するお役立ち情報を中心にお伝えします。

2016年は
どんな1年でしたか？
1年の振り返りをしましょう！



コンさるくん

★今月の TOPICS★

金融行政方針を読み解く

代表 長尾 康行



こんにちは、長尾経営事務所代表、中小企業診断士の長尾です。早いものでもう12月となりました。師匠でさえも忙しくて走るという意味で「師走」と呼ぶらしいのですが、私自身はありがたい事に年中「土走（土業も走る）」だったような気がします。ミスや私自身の体調管理ができていないなど、お客様にご迷惑をおかけすることもしばしば発生しておりますが、どこかでリカバリーできるよう全力を尽くしておりますので何卒ご容赦下さい。

さて、本日は金融庁が10月に発表した「金融行政方針」について触れたいと思います。金融行政方針は金融機関に対する「指導要綱」みたいなもので、これからの金融機関がどのような姿勢や考え方をすべきかをレポート形式でまとめたものです。

今回の「金融行政方針」では、次の3つの基本方針を打ち立てています。

- ・金融当局・金融行政運営の変革
- ・国民の安定的な資産形成を実現する資金の流れへの転換
- ・「共通価値の創造」を目指した金融機関のビジネスモデルの転換

これだけを読んでもピンと来るような来ないような表現で難しいこともいくつか書いているのですが、レポートの中で中小企業の経営者の皆様と直接的に関係のある箇所をすくく大雑把にまとめてみました。

- ・厳格で形式的な（決算書などの）査定ではなく、実質的な査定をすること
- ・過去の一時点の状態よりも将来性を重視するべき
- ・特定の問題にフォーカスするのではなく、真に重要な問題への対応をすること
- ・貸し先がないと金融機関は考えているが、企業は担保や保証がないと貸してくれないと嘆いている
- ・金融機関が経営者と深い話をすべきである
- ・これまでの量的拡大競争は限界を迎えている
- ・顧客本位の良質なサービスを提供し、その結果金融機関も収益を上げること

どうですか？金融庁の偉いさん達はなかなか良いことを言いますね。ただし、これは法律ではありませんので金融機関に対してどれほどの拘束力があるのかは不明です。しかし、中小企業経営者の皆様や我々のような事業再生の支援を行う専門家がいつも疑問に思い、腹が立ち、理不尽に感じていたことに対して一石を投じたことは間違いありません。金融機関の皆様にとっても、形式的な査定ではなく会社を訪問し、経営者と膝を突きあわせ、現場を見ることで正しい査定ができると頭ではわかっていながら、それができなかったもどかしさもあったかもしれません。

また、中小企業の経営者の皆様の中にも決算書の結果だけを重視する金融機関のやり方に対し、粉飾という手段で対抗してきた経緯がある事実も否定できません。過去の数値を形式的に審査することなどお互いにとって何のメリットもないことがこのことから分かります。金融庁が今の金融機関のやり方に対して、改善を促していることは明らかですので、それが早く実務レベルで目に見えるカタチとなれば良いなとつくづく感じました。



— 今月の1枚 —

みかんの季節がやってきました！

和歌山県信用保証協会様の専門家派遣事業「わかやま連携サポート」にて昨年より専門家登録させて頂いており、週に1回は和歌山県を訪れています。和歌山県でみかんの木を見るのは2回目ですが、1年経つのがこんなにも早いとは・・・と、ひしひしと感じています。寒さも厳しくなってきましたね。皆様もインフルエンザや風邪など、体調にはくれぐれもお気をつけ下さい！ by 住吉

鬼瓦に思う

パートナー 宮内 伸人



山陰の宮内です。

私の数少ない趣味のひとつに、古い鬼瓦の収集があります。（値段は、私が購入できるぐらいのものなので、それほど高価ではありません><）

鬼瓦は、興味の無い人から見れば何の変哲もないものですが、私にとってはとてもキュートです^^。

本来、鬼瓦は屋根の両角に位置し雨水の浸入を防ぐことが主な役割ですが、その一方でその建物にとって重要な役割を持っています。シルクロード、唐を経由して私たちのもとに伝わった鬼瓦。家を建てる際の魔除け対策、家庭を災いから守ってくれる大切なものとして古（いにしえ）の人々は鎮座させました。しかし、私にとってのそれは専ら観賞用です。

ところでこの古い鬼瓦、私がちよくちよく出沒する骨董市でもほとんど姿を見る機会が減ってきたように思います。最近の新築住宅では瓦葺きのものが殆ど無くなってまいりました。スレート葺きがほとんどですね。鬼瓦そのものを見向きすることがだんだん無くなっていくように思っています。古くより、鬼瓦作成に従事する人を「鬼師」というそうですが、この「鬼師」のなせる業を伝承するステージも、あとを継ぐ後進も少なくなってきました。いずれ、この日本では鬼瓦を屋根に葺くという文化が無くなってしまいうのかもしれない。

鬼瓦が減り行かざるをえない文化として捉えられているのでは？そのことにより、骨董品に出される以前に廃棄処分されているのでは？考えればいてもたってもいられません。

しかし、最近気づきました。これらの瓦は近頃は山陰より値が付く、京都などの都会地に出回っているような。経済原理上、残念ですが仕方ないかと><。

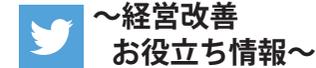


アソシエイト住吉の★今月の TOPICS★は裏面にてお伝えします！



随時情報発信中！

いいね！お待ちしております。



@nagaokieipoint

長尾経営事務所の

Twitter アカウントです！



下のQRコードからすぐにご登録いただけます。



登録無料☆
毎月2～3回
配信しています

